



## Nexus Switch Intersight デバイス コネクタ

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- [Nexus Switch Intersight デバイス コネクタの概要](#) (1 ページ)
- [注意事項と制約事項](#) (2 ページ)
- [Nexus スイッチの Intersight への設定](#) (2 ページ)
- [NXDC 構成とステータスの確認](#) (4 ページ)
- [Intersight での Nexus スイッチの要求](#) (5 ページ)

## Nexus Switch Intersight デバイス コネクタの概要

デバイスは、各システムの Cisco NX-OS イメージに組み込まれている Nexus Switch Intersight Device Connector (NXDC) を介して [Intersight ポータル](#)に接続されます。

Cisco NX-OS Release 10.2(3)F 以降、NX-OS 機能のデバイス コネクタは、接続されているデバイスに対して、セキュリティで保護されたインターネット接続を使用して情報を送信し、Cisco Intersight ポータルから制御命令を受信できる安全な方法を提供します。

NXDC は、すべての Cisco Nexus シリーズ スイッチでデフォルトで有効になっており、デフォルトで起動時に開始され、クラウドサービスへの接続を試みます。安全な接続が確立され、デバイス コネクタが Intersight サービスに登録されると、デバイス コネクタは詳細なインベントリ、正常性ステータスを収集し、採用テレメトリデータを Intersight データベースに送信します。インベントリは 1 日に 1 回更新されます。

NXDC は Intersight に接続すると、Intersight サービスによる更新を介して、最新のバージョンに自動的に更新される AutoUpdate 機能をサポートします。

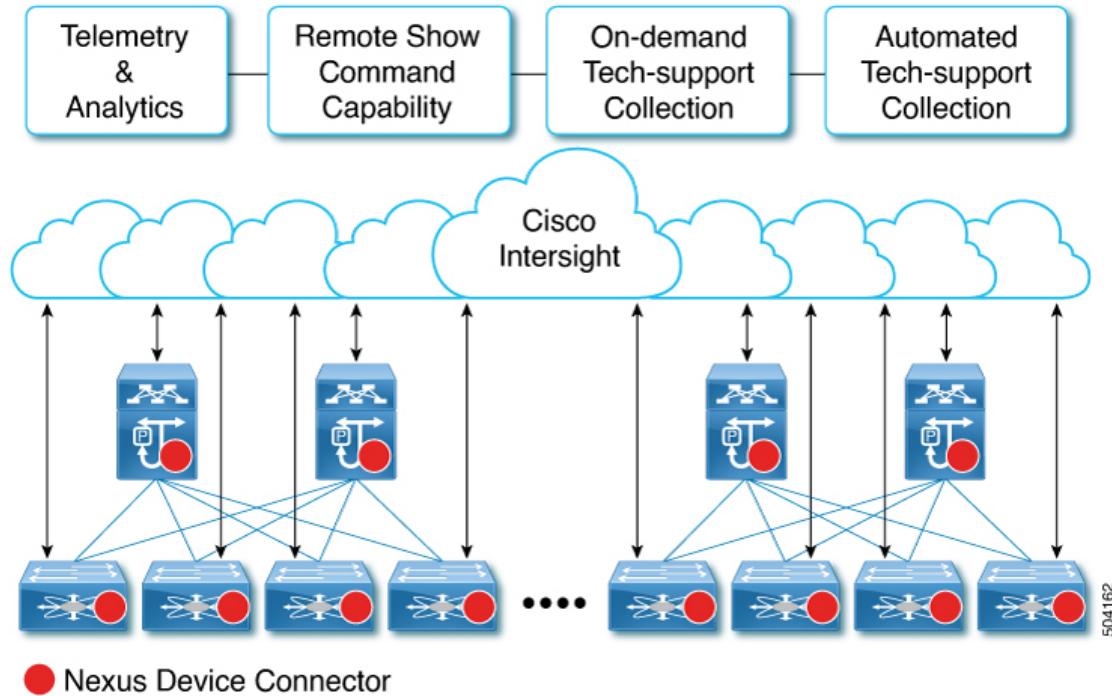
NXDC はまた、Connected TAC 機能をサポートして、[要求されたデバイス](#)からテクニカルサポートデータを収集します。

NXDC 機能の統合は、次の機能を持つスタンドアロン Nexus スイッチの問題を解決するために行われました。

- スタンドアロン Nexus スイッチから基本データを収集するための迅速かつ迅速なソリューションを提供します。
- クラウドにデータを安全に保管し、管理します。

## ■ 注意事項と制約事項

- 将来の機能に柔軟に対応し、NXDC をアップグレードできるようにします。



## 注意事項と制約事項

NXDC の注意事項と制約事項は次のとおりです。

- DNS を設定する必要があります。
- svc.intersight.com が解決されること、ポート 443 でアウトバウンドで開始される HTTPS 接続が許可されていることを確認する必要があります。
- svc.intersight.com への HTTPS 接続にプロキシが必要な場合は、プロキシは NXDC ユーザーインターフェイスで構成できます。プロキシ設定については、[NXDC の設定](#)を参照してください。

## Nexus スイッチの Intersight への設定

デフォルトでは、Nexus スイッチはシスコの Intersight への接続を試みます。Nexus デバイスが Intersight に到達できない場合は、Intersight の特定のプロキシを設定する必要があります。



- (注) デフォルトでは、Intersight の機能（Nexus デバイスコネクタとも呼ばれる）が有効になっています。

Intersight の機能のオプションパラメータを設定するには、次の手順に従います。

## 手順の概要

1. **configure terminal**
2. (任意) **intersight proxy <proxy-name> port <proxy-port>**
3. (任意) **intersight use-vrf vrf-name**
4. (任意) **intersight trustpoint <trustpoint-label> [host-name]**
5. (任意) **intersight source-interface <interface>**
6. (任意) **no feature intersight**

## 手順の詳細

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<b>configure terminal</b>  例： <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	(任意) <b>intersight proxy &lt;proxy-name&gt; port &lt;proxy-port&gt;</b>  例： <pre>switch(config)# intersight proxy proxy.esl.cisco.com port 8080</pre>	Intersight 接続用のプロキシサーバーを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>proxy-name</i> : プロキシサーバーの IPv4 または IPv6 アドレスまたは DNS 名。</li> <li>• <i>Proxy Port</i> : プロキシのポート番号を入力します。範囲は 1 ~ 65535 です。デフォルト値は 8080 です。</li> </ul> <p>(注) Cisco Nexus スイッチのスマートライセンス設定でプロキシが有効になっている場合、NXDCはこの設定を継承し、Cisco Intersight Cloudとの接続を試みます。</p>
ステップ3	(任意) <b>intersight use-vrf vrf-name</b>  例： <pre>switch(config)# intersight use-vrf blue</pre>	指定された VRF 経由で接続する場合、NXDC の VRF を変更します。 <p>(注) デフォルトでは、Intersight は管理 VRF/ネームスペースで開始されます。</p>
ステップ4	(任意) <b>intersight trustpoint &lt;trustpoint-label&gt; [host-name]</b>	Intersight 接続の証明書を設定します。

## NXDC 構成とステータスの確認

	コマンドまたはアクション	目的
	例： switch(config)# intersight trustpoint test test	<i>trustpoint-label</i> : Crypto ca trustpoint ラベル。 詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Security Configuration Guide』を参照してください。
ステップ5	(任意) <b>intersight source-interface &lt;interface&gt;</b> 例： switch(config)# intersight source-interface mgmt 0	通信のための送信元インターフェイスを設定します。
ステップ6	(任意) <b>no feature intersight</b> 例： switch(config)# no feature intersight	Intersight プロセスを無効にし、すべての NXDC 設定とログストアを削除します。

## NXDC 構成とステータスの確認

NXDC 構成を確認するには、次の Bash コマンドを使用します。

NXDC 構成とステータスを表示するには、次のコマンドのいずれかを入力します。

コマンド	目的
<b>show system device-connector claim-info</b>	デバイスのシリアル番号、トークン、および Intersight 要求の状態を表示します。  (注) トークンは、Intersight への接続が確立され、デバイスが要求されていない場合に表示されます。デバイスが要求されている場合には、トークンは表示されず、メッセージセクションに「すでに要求されているデバイスの要求コードは取得できません (Cannot fetch claim code for already claimed device)」と表示されます。  有効なトークンの期間が秒単位で報告されます。
<b>show system device-connector log [dc dcgrpc cnmi nae sim compliance]</b>	デバイス コネクタのログ メッセージを表示します。

次に、デバイスが要求される前の show system device-connector claim-info コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show system device-connector claim-info
SerialNumber: FDO23021ZUJ
SecurityToken: 9FFD4FA94DCD
Duration: 599
Message:
Claim state: Not Claimed
```

次に、デバイスが要求された後の show system device-connector claim-info コマンドの出力例を示します。

```
Switch# show system device-connector claim-info
SerialNumber: ABCD12345E6
SecurityToken:
Duration: 0
Message: Cannot fetch claim code for already claimed device
Claim state: Claimed
Claim time: 2024-02-18T12:00:01.77Z
Claimed by: user@cisco.com
Account: dc- customer
Site name:
Site ID:
```

## Intersight での Nexus スイッチの要求

特長や機能の使用を開始するには、Intersight ユーザーインターフェイス (UI) でスイッチを要求する必要があります。

Intersight UI でスイッチを要求するには、次の手順に従います。

- Intersight UI を使用して Nexus スイッチを要求します。

Intersight で接続済みのデバイスを要求するには、[ターゲットの要求](#)で説明されているプロセスに従います。

- Ansible プレイブックを使用して複数の Nexus スイッチを要求します。

Ansible を使用して複数の Nexus スイッチを自動で要求するには、[Ansible プレイブック](#)に記載されている詳細を確認してください。

## ■ Intersight での Nexus スイッチの要求

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。